

第6章

水資源に関する理解の促進

1 水資源に関する理解の促進 ～「水の日」及び「水の週間」～

政府は、水の貴重さや水資源開発の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めるために、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として定め（昭和52年（1977年）5月31日閣議了解）、水に関する各種の活動を国、地方公共団体及び関係諸団体の緊密な協力のもとに実施している。

平成26年（2014年）の「水の日」及び「水の週間」は第38回を迎えた。特に平成26年8月1日は、3月に水循環基本法が成立し、法律で定められた初めての「水の日」となった。

今年の水循環基本法が成立したことから、国民に広く水が健全に循環することによってもたらされる水の恵みや健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めてもらうため、「健全な水循環により、水の恵みを楽しむ社会を目指して」をテーマとして、以下の活動が実施された（参考6-1-1）。

（1）水の週間中央行事「水の週間シンポジウム」

東京都千代田区の砂防会館シェーンバッハ・サボーにおいて、約550名に会場いただき、「水の週間シンポジウム」を開催した。シンポジウム主催者である国土交通大臣政務官、東京都都市整備局長、水の週間実行委員会会長による挨拶の後、「第36回全日本中学生水の作文コンクール」最優秀作品の披露として、受賞者による朗読を行った。続いて、東京大学生産技術研究所の沖大幹教授による講演「地球をめぐる水と水をめぐる人々」の後、太田昭宏水循環政策担当大臣から安倍内閣総理大臣（水循環政策本部長）メッセージの披露を行った。その他、会場では「第36回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第29回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品等の展示を行った。

（2）水の週間中央行事「水の展示会」

東京都千代田区の東京国際フォーラムにて、東京国際フォーラムが開催する「丸の内キッズジャンボリー2014」に参加し、一部スペースで「水の展示会」を開催した。

（3）第36回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。応募作文総数は19,419編にのぼり、各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞1編、優秀賞8編、及び入選36編が選ばれた。最優秀賞受賞者に国土交通大臣政務官から、優秀賞受賞者に関係団体代表者から賞状が授与された。

なお、平成26年度（2014年度）から全日本中学生水の作文コンクールが政府全体の取組とされたことから、例年の国土交通大臣賞に加えて内閣総理大臣賞及び関係各省大臣賞（厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞）を創設した。

(4) 平成 26 年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域振興、水環境の保全、水源涵養及び水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体に対して、国土交通大臣賞を授与した。

(5) 第 29 回水とのふれあいフォトコンテスト

健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する作品を募集し、優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与した。

(6) 水の週間一斉打ち水大作戦

雨水や下水再生水など水道水以外の水を有効利用し、その効果を体感し、水を賢く使う先人の知恵を実感してもらうとともに水について考えていただくことを目的として、全国各地で一斉に打ち水をする、水の週間一斉打ち水大作戦を実施した（参考 6-1-2）。

(7) その他

全国各地で、水に関する展示会、講演会、シンポジウム、水資源開発施設見学会、水源地域と水消費地域の人々の連帯意識醸成のための上下流交流会などが開催された（参考 6-1-3）。